

「脱炭素都市づくりのための建築時CO₂排出削減に向けて」

日時：2024年1月30日(火)午後1時～5時30分(建築会館ホール+Zoom ミーティングにて開催)

司会：横尾昇剛(宇都宮大学)、副司会：岩本静男(神奈川大学)、記録：宮崎慎也(福岡大学)

参加費：オンライン参加(無料)、対面参加(資料代として¥1,000-)

2030年温室効果ガス半減、2050年ネットゼロへのシナリオを超えて今すぐにも、大規模な温室効果ガス削減、かつ、頻発化する気候災害に対する適応策も求められている。大胆な変革をライフスタイル、産業経済で進める必要がある。建築分野では脱炭素のための省エネ対策だけでなく、建設時でのCO₂排出の削減も課題となっている。昨今、市民の関心も高まっているスクラップアンドビルド型(解体・建築)の都市再開発の見直しも問われている。持続可能な脱炭素社会構築のためには、経済成長による近代文明論とは異なる脱炭素文明論ともいえるものを追求する必要がある。それに向けた建築・都市づくりの喫緊の課題は何か。造り続けることからの脱却も含めて建築・都市像が問われている。人口減少社会に突入した日本での、都市再開発は将来的な座礁資産となるリスクも抱える。世界レベルでは解体と新築による総合的なCO₂排出量の把握と削減対策が求められつつある。

2023年度シンポは広く文明論から問い、建築・都市づくりでのCO₂排出削減、そのための都市計画制度の転換についても討議を深めていきたい。

1部 参加団体からの活動報告

開催挨拶：

活動報告：

中村勉
(ものづくり大学、脱炭素社会推進会議議長)

脱炭素社会推進会議参加団体

2部 脱炭素都市づくりのための建築時CO₂排出削減に向けて

基調講演：脱炭素社会のための文明転換に向けて

主旨説明：脱炭素建築・都市づくりとホールライフカーボン

話題提供：① 国交省補助事業「ホールライフカーボン評価法」の開発状況

② 建設業界でのアップフロントカーボン算定の意義と課題

③ 設計段階におけるアップフロントカーボン算定の国際状況と日本の課題

④ 建築材料生産におけるEPD-CO₂算定の課題

⑤ 日本建築学会におけるLCCO₂算定の歩みと課題

⑥ 容積率拡大移転の脱炭素都市づくりの課題

モンテカセム
(国際教養大学 学長)

中村勉
(前掲)

伊香賀俊治

(慶應義塾大学、ゼロカーボンビル推進会議委員長代理)

高井啓明

(竹中工務店、日建連)

岡田早代

(Cube Zero)

磯部孝行

(武蔵野大学、日本建築学会)

外岡豊

(埼玉大学、日本建築学会地球環境委員会LCA小委員会)

福井秀夫

(政策研究大学院大学、日本不動産学会)

3部 討論

コーディネーター

登壇者
まとも

モンテカセム、中村勉、高井啓明、岡田早代、磯部孝行、外岡豊、福井秀夫
山崎真理子(名古屋大学、日本木材学会)

お申し込み

2024年1月28日(日)までに、こちらよりお申し込みください。
右のQRコードからもお申し込み頂けます。

連絡先

メール：jigyoy1@kenchikushikai.or.jp(日本建築士会連合会事務局 高橋)

脱炭素社会推進会議事務局：(公社)日本建築士会連合会 東京都港区芝5-26-20 建築会館5階 Tel:03-3456-2061

構成団体：(公社)空気調和・衛生工学会、(一社)建築設備技術者協会、(一財)住宅・建築SDGs推進センター、(一社)建築設備総合協会、(一社)住宅生産団体連合会、(一社)電気設備学会、(一社)都市環境エネルギー協会、(一社)日本サステナブル建築協会、(一社)日本建設業連合会、(公社)日本建築家協会、(一社)日本建築学会、(一社)日本建築構造技術者協会、(公社)日本建築士会連合会、(一社)日本建築士事務所協会連合会、(一社)日本太陽エネルギー学会、(公社)日本都市計画学会、(一社)日本木材学会、日本ヒートアイランド学会、農村計画学会、日本環境共生学会、(一社)日本ビルデック協会連合会、(一社)照明学会、(公社)日本不動産学会、(一社)環境共生住宅推進協議会

